

特別支援教育と作業療法

特集にあたって

特別支援教育制度が2007年（平成19年）に推進され6年が経過し、教育現場における作業療法の認知度や期待度は年々向上している実感がある。2013年度（平成25年度）の文部科学省における特別支援学校機能強化モデル事業においては、リハ専門職の配置と活用が組み込まれており、2015年を目途に実績を示す必要がある。また、文部科学省主催で各都道府県教育委員会と特別支援教育課の実務担当者会議において保健・医療・教育・福祉等におけるリハ連携の課題と今後のあり方について報告する機会を得た。

教育にかかわる外部専門家としての介入から約9年間の地道な取り組みが、具体的な形としてみえてきた。全国で取り組んできた一人ひとりのOTの思いが、集約され実績が評価され、当事者団体や関連職種、関連団体の連携協力があり、具体的な仕組みとして今、動き出している。

今後、インクルーシブ教育システムの構築に向けて特別支援教育の充実はいっそう重要で、OTはキーとなる役割を果たすと確信している。本特集にあたって、多くのOTに興味と関心をもっていただき、医療・教育・福祉の連携のあり方や2025年を見据えながら作業療法の技を地域に定着させてほしいものである。

（三澤一登）

企画担当

三澤 一登（愛媛十全医療学院，作業療法士）

宮崎 明美（児童発達支援センターみどり学園，作業療法士）

澤 俊二（藤田保健衛生大学，作業療法士）